

平成29年度「特色ある学校づくり対策事業」の実践



佐世保市立浅子小学校

所在地 佐世保市浅子町58番地

校長 加藤 尚美

児童数 22名

学級数 3学級

(平成29年5月1日現在)



<学校教育目標>

9年間を通して育てる 学び合い 認め合い 高め合う子ども

校訓	感動	優しく、礼儀正しく、感性の豊かな子ども
	自主	自ら進んで学ぶ子ども
	忍耐	最後までやり抜く子ども

<重点目標>

- (1) 心の教育（いのちの教育）を充実させるため、環境を整える。
(言語環境、掲示教育、環境整備、最大の環境である教職員自身)
- (2) 小中併設校の特性を理解し、そのよさを生かした学習指導、生活指導に全職員で取り組む。

1 目的

<浅子校を卒業するときのめざす姿>

『確かな学力を身に付け、健やかな体に豊かな心を宿らせて、夢に向かって学び続ける人』

<スローガン>

9年間を見通した一貫性のある浅子校の小中連携教育

<確かな学力の育成>

～義務教育学校開校を視野に入れた取組～

- 小中連携を生かした取組
 - ・小中学校職員の相互乗り入れ授業
 - ・小中連携カリキュラムの作成
- 朝の時間の活用
 - ・チャレンジ学習の充実
- 表現力及び言語活動の育成
 - ・読書活動の充実
 - ・発達段階に応じたNIE活動

<交流・体験の充実>

- 次代へつながる
 - ・保育所や中学校、地域との交流
- 郷土を大切にする心を育てる
 - ・体験学習や奉仕活動
- 生命の尊さ、食の大切さを感じる
 - ・栽培活動の充実
- 豊かな心を育む
 - ・特別支援学校等との交流
 - ・デイケア施設との交流

2 実践内容

確かな学力の育成

＜小中学校職員の相互乗り入れ授業＞

来年度からの義務教育学校への移行を踏まえ本校の特性である小中併設校としてのよさを生かしながら、9年間を見通した児童生徒の育成を行ってきた。その一つが、小中学校職員の専門的知識や技能を生かした学習指導である。昨年度から、国語、英語、音楽、美術の中学校職員が、小学校への乗り入れ授業を、小学校職員が、中学校の保健体育への乗り入れ授業を行ってきた。専門的な知識や技能を生かした学習指導は、児童にとっても新鮮で、効果が上がっている。また、小中共同による各種行事の実施や合同校内研修の取組など、あらゆる場面で連携強化を図ってきた。義務教育学校開校に向けて「9年間を見通した一貫性のあるカリキュラム」も作成した。



＜中学校職員による音楽科への乗り入れ授業＞

＜朝のチャレンジ学習の充実＞

本年度も毎週水～金曜日に実施する朝の活動の時間は、漢字や計算の練習、読解力プリント学習を中心とした「チャレンジ学習」を行い、計算力、語彙力、表現力の育成を図った。チャレンジ学習を継続して行うことで、基礎学力が向上した。全校児童が集まって取り組むことにより、各学年の緊張感や集中力を育成するよい機会となった。また、毎月第1週の火曜日に実施している「あさごっこタイム」では、全校児童の前で詩の朗読や総合的な学習の成果等を発表する場を設定しており、表現力（話す・聞く）の育成に役立っている。



＜あさごっこタイムでの1年生による詩の朗読＞



＜図書室の掲示コーナー＞

＜表現力及び言語活動の育成＞

（1）読書活動の充実

毎週月曜日に来校する学校司書が新着本や図書に関するイベントの紹介、子どもたちの読書意欲を高める工夫などを行なった。また、季節や行事に関連した掲示物作成など、親しみのもてる環境整備も進めてきた。10～11月の読書週間にかけては、読書ビンゴ（物語や伝記など、色々な分野の本を読む取組）を実施した。月を追うごとに貸出冊数も伸びており、全体的に読書量が増えている。今後も、各家庭とも連携しながら家読にも力を入れて

いきたい。

（２）発達段階に応じたNIE活動

一昨年度より中学校が取り組んでいるNIE活動を、昨年度から小学校でも学年の実態に応じて実施している。子ども新聞の定期的な購読、新聞ノート作り、「〇〇新聞」作りなどを通して新聞への興味が高まり、表現力の育成に役立っている。

感動する心と表現力を育む交流・体験学習の充実

＜次代へつながる保育所や中学校、地域との交流＞

本年度も保幼小連携の一貫として、浅子保育所との交流を定期的に行った。１年生が学校に慣れた６月に、来年度入学予定の園児を小学校に招待し、学校を案内したり、レクリエーションで一緒に遊んだりすることで、顔見知りになり、緊張を和らげることができた。また、砂の造形活動（二本松海岸で実施）や保育所お遊戯会、節分の日豆まきへの参加、園児の招待給食などを重ねることで相互理解を深め、小学校入学の不安を解消する一助となった。また、職員同士の話し合いもでき、情報交換や共通理解にも役立っている。



＜砂の造形活動を浅子保育所園児が見学＞

６月には地域のお年寄りの方々とのグランドゴルフ、そして、９月にはあさなぎ大運動会（中学校や地域との連携）を通して地域との交流を深めることができた。コミュニケーションの機会が増えることで、地域の方々の児童理解にもつながっている。

＜郷土を大切にする心を育てる＞

周りを海に囲まれた本校校区は、海水浴場を有するなど、海洋自然に恵まれている。こうした自然を大切にする心、そして、郷土を愛する心を育てるために、今年も釣り体験（３～５年生が参加）を実施したり、地域主催の二本松海岸クリーンアップ活動に参加したりした。釣り体験では、地域の方との交流の機会もあり、「地域の特色を



＜いのちを見つめるコンサート＞

生かしたい取組である。」との感想もいただいた。クリーンアップ活動では、ふるさとの海のすばらしさと、それを守り続けることの大切さを学ぶことができた。また、１１月には、バルーンアート教室が開催された。こうした地域活動に積極的に参加することで、豊かな自然や伝統の素晴らしさを見直し、郷土を大切にする子どもの育成をさらに進めていきたい。６月には、昨年度に引き続き「いの

ちを見つめるコンサート」を実施した。プロのピアノ演奏家による生の演奏に触れ、素晴らしい感動を味わうことができた。地域からも参観者があり大変好評であった。

＜生命の尊さ、食の大切さを感じる栽培活動の充実＞

例年、校内にある畑の一部を利用して、全学年でたまねぎやサツマイモ栽培に取り組んでいる。苗植えから収穫までの一連の作業を実際に体験することで、農業を営む人たちの工夫について学ぶことができた。水をかけたり雑草を取ったりする活動を縦割班で行ったので、互いに助け合う心を育てることができた。また、収穫したサツマイモを使って芋料理にもチャレンジした。①収穫したサツマイモを使って、どんな料理ができるか話し合う。②料理に必要な材料の買い出しに、地域のお店に買い物に行く。③調理の分担について下級生に伝え、調理活動をグループごとに進める。こうした一連の活動を高学年児童が中心となって行い、みんなで協力して行うことで、一人一人が満足感、達成感を味わうことができた。また、親子で調理したり、会食したりすることで、日頃気づかない親の愛情にも触れることができた。



＜縦割班による芋ほり＞



＜玉ねぎの苗植え＞

＜豊かな心を育む特別支援学校やデイケア施設との交流活動＞

本校では、毎年、佐世保特別支援学校（肢体不自由教育部門）の１・２年生との交流を通して、子どもたちの社会性や豊かな人間関係を育み、コミュニケーション能力の育成を図るための活動を行っている。本年も、訪問前の準備として、子どもたちは前年の交流を思い出し、交流する特別支援学校の子どもたちのことを思い描きながら、自己紹介カード作りを行った。当日は、本校児童による出し物（合唱）、班ごとに分かれての自己紹介、そして、班対抗風船バレー大会を通して楽しく交流することができた。少人数という限られた人間関係の中で生活している本校児童にとって、こうした異校種間交流や施設訪問は、障がいのある人やお年寄りを理解する上でも大変意義深いものとなっている。



＜させほ特別支援学校との交流活動＞